

やくも いずも や えがき つまごみ  
八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に

八重垣作る その八重垣を

たけはや すきのおのみこと  
建速 須佐之男命



ヤマタノオロチ いなさく びでん くしなだひめ  
八岐大蛇を退治した武勲により稲作と美田の女神である「奇稲田姫」を  
めと 娶った須佐之男命は、新妻の為に出雲の須我すがという所に宮殿を建てた。  
しゅうげん 最古の歌は祝言の歌謡と筆者は思う。押韻と三度の八重垣で閨ねやを喜ぶ。

やくもオ たアツウ いずもオ

八雲 立つ 出雲

やえがき つまごみ にイイイ

八重垣 妻籠 に

やえがき つくるウ そオのオ

八重垣 作る その

やえがき をオオオ

八重垣 を

令和五年二月二十三日 天皇誕生日に 大中臣正比呂 記